

## 平成 30 年度国際言語文化アカデミア事業計画に対する事前評価

平成 30 年 5 月 2 日

国際言語文化アカデミア外部評価委員会

神奈川県立国際言語文化アカデミアは、多文化共生社会の実現に向けて、「国際社会で活躍できる人材の育成」、「外国籍県民がくらしやすい環境づくり」及び「県民の多文化・異文化理解の推進」を 3 つの使命として、平成 23 年度から研修・講座を開講してきました。

国際言語文化アカデミア外部評価委員会は、国際言語文化アカデミアの設置目的である多文化共生社会づくりへの言語・文化の面からの貢献を踏まえて、より効果的・効率的な事業推進を図るため、アカデミアが実施する事業内容や実施方法等に関し、事業評価を実施することを目的として、平成 23 年 7 月 1 日に設置され、現在に至っています。

この間、平成 26 年度及び 29 年度には、アカデミアの機能や組織・運営面について、外部の有識者による機関評価が行われ、平成 29 年度の機関評価では、機能については以下のような評価が行われました。

- ・引き続き公的な役割を維持しながら、研修・講座について内容を充実していく必要がある
- ・神奈川が持つ地域資源を講座に取り入れ、外国人に対し身近な日本社会の実情を発信することが重要である
- ・多文化共生社会を築いていくため、外国籍県民の積極的な参画も得ながら、日本人に対して異文化理解を促す内容の講座を開催していく必要がある
- ・修了者へのアフターフォローや、人材の活用について関係機関等との情報交換等を行うことにより、実践的な活動につなげていく必要がある
- ・事業ごとに導入した成果指標と数値目標の検証を進め、目標達成のための方策をカリキュラムに反映するとともに、成果指標そのものについても不断に見直すことが望まれる

また、組織及び運営については、3 事業ごとの特性等も踏まえながら、幅広い視野から、機能を継続・充実するためにふさわしい組織・運営のあり方の検討に速やかに着手すべきであるとされました。

国際言語文化アカデミアでは、機関評価委員会における審議内容を踏まえ、以下の内容などを事業実施方針として、平成 30 年度の事業計画を作成しました。

- ・多文化共生社会の実現に向け、より実践的・中核的な人材育成機能を強化できるよう、選択と集中の観点から、受講者ニーズや県施策ニーズに応じたメリハリのある講座カリキュラム編成とする。
- ・受講者のニーズ等を的確に把握し、年間を通じて柔軟に講座を展開していく。
- ・事業ごとの特性に応じて、本県の地域資源に関する事項を盛り込んだ講座内容の工夫や、外国籍県民の参画を得て日本人に対して異文化理解を促す講座の充実、修了者へのアフターフォローの充実等を図る。
- ・週末の開講講座については、受講者のニーズ、効率的・効果的な事業運営にも留意しながら、引き続き充実に努める。
- ・横浜駅西口「KANAFAN ステーション」や県西地域等において講座を開講するほか、多言語支援センターとの多様な連携を進めていく。

今回、外部評価委員会では、平成30年度事業計画に係る事前評価を行うに当たり、機関評価に伴う事業の見直し・再編成や、受講者・県民ニーズへの対応の状況を主眼に評価を行いました。

この評価を基に、平成30年度の実施講座がより充実したものとなり、神奈川県における多文化共生社会の実現に寄与することを願うものです。

## 総括

2回目の機関評価の議論の方向性に沿うとともに、時代の変化にも対応した、的確な事業計画となっていることを評価します。

これまでも日本語や英語の教材をネット上で公開しており、新たにWeb教材の公開を準備中とのことですが、今後とも講座運営を通して得られた有益な情報について積極的に提供を進めることを望みます。

また、訪日外国人や外国籍県民の増加が進むなど、アカデミアの使命の重要度が増していく中で、今後とも経験・ノウハウを蓄積しつつ、教員人材をはじめとするリソースの確保に努め、将来の状況にきちんと対応できる体制を維持することを期待します。

- ・「外国語にかかる教員研修事業」については、英語の4技能の指導と評価改善に向けた英語教員の知識・技能の強化が急務であり、教員が英語教育改革に適切に対応できるよう、充実した研修を実施していくことが望まれます。また、これまで行ってきた「英語教育アドヴァンスト研修」の成果を全県的に波及させる取組みや、意識の高い教員に対する土曜日講座の開講など、様々な方法を組み合わせ、人材育成に向けたリーダーの養成に力を注ぐことを期待します。
- ・「異文化理解支援事業」については、英語の「フォローアップ講座」の新設やアジア・南米系の言語・文化に関する講座の充実などによる、さらに幅広い講座展開を通じて、2020年の東京オリンピック・パラリンピック等を控え、語学力だけでなく、異文化理解や多文化共生意識を醸成していくことが望まれます。また、「青少年向け異文化理解・コミュニケーション能力向上講座」については、青少年のニーズに沿った実施方法について十分検討し、講座の再開に結び付けていくよう期待します。
- ・「外国籍県民等支援事業」については、「日本語ボランティア入門講座」の出前講座の需要が多いとのことですので、さらに効率的な業務運営に努め、今後も地域のニーズにできるだけ応えて、外国籍県民を支援する人材を幅広く育成することを期待します。また、市町村研修センターや多言語支援センターとの連携、行政専門職との情報交換を含め、幅広い主体と協力して、適切な支援に結び付けることを望みます。

以下、それぞれの事業について意見を述べます。

### 1 外国語にかかる教員研修事業

講座については、現在、教員が身につけるべき重要な資質・能力に関する項目がすべて網羅されており、全国でも随一の研修体系になっていると考えます。

また、アクティブラーニングとは、深い思考力を育成する学習の総称であるという前提に立っていること、思考力を育てる英語の授業については、単発的でなく系統的な講座になっていることが評価でき

ます。

#### <英語教育アドヴァンスト研修>

- ・中核的な教員を育てるという点で、全国的にも例を見ない省察的な研修を実施しており、その効果をフォローアップし、ホームページなどで、目に見える形で示すことが、研修の波及効果を高める上で重要です。今後公開する報告書の構成等について、閲覧者により一層アピールできるような工夫をしていくことが望まれます。
- ・発足当初に比べ、若手の教員の参加が多くなっていることから、引き続き研修の成果を校内や全県に波及させるためのバックアップが重要です。

#### <英語講座(夏期・平日)>

- ・英語に必要な4技能は切り離されたものではなく、全てが統合されたものでなくてはならないという意識が高校教員には薄いので、それを変えていくような講座運営を期待します。
- ・プレゼンテーションや「やりとり」の重要性について意識できるような研修、ICTの活用についての敷居を下げるような研修等が用意されており、評価できる内容になっています。

#### <小学校英語活動研修>

- ・新学習指導要領が告示され、移行期間に入ったことに伴う教科化・低年齢化に対応するため、各教育委員会のニーズは今後も高いと思われます。人員の問題はありますが、今後もできる範囲で継続していくことを期待します。
- ・小学校外国語活動及び教科としての「小学校外国語」を経て中学・高校の外国語へと移行するわけですが、小学校では教科であるからといって、中学の指導法をそのまま取り入れるのではなく、小学生に合った指導法を研修の中で意識してもらう必要があります。
- ・単発の研修の中で、小学校の教員として何が必要か気付くことができるような、インパクトのある研修を望みます。
- ・アクティブラーニングについては小学校教員の方が理解している面もあるので、研修の中で実践を伴うワークショップ形式を取り入れることで気づきを促すなど、小学校教員の強みを活かしたアプローチに期待します。

#### <研究活動>

- ・「高等学校外国語教員研修の生徒の英語力向上への波及効果に関わる調査研究」、「中・高等学校英語担当教員のeラーニングを支えるICTに関する調査研究」、「通常授業にディベートを導入する為の効果的なシラバスデザインに関する調査研究」を実施する予定ですが、ディベートについては、その前提になるディスカッションやプレゼンテーションの力を高めることが必要です。ディベート大会で実績を上げた学校がどのような指導をしてきたかなどの事例を収集するなどして、高校生の将来に役立つ研究となることを期待します。

## 2 異文化理解支援事業

地域において中心となって活躍できる人材を育成するための講座カリキュラムに再編後、3年目を迎える中で、「コミュニケーション支援ボランティア養成講座」については、ボランティアを目指す語学講座において県内の地域資源に目を向けた内容を取り入れ、修了者を実際の活動につなげる講座を引き続き実施するとともに、アジア・南米に関する講座の充実により、さらなる共生意識の醸成を図る

など、充実した計画になっています。

また、実践的な語学講座だけではなく、その文化的な背景について取り上げて理解を深める講座についても、引き続き充実していくことを期待します。

全体としては講座数が増加しており、外部講師の活用などを通じて、教員に過度な負担とならないような講座運営を望みます。

#### <コミュニケーション支援ボランティア養成講座>

- ・英語講座の目標として設定しているレベルについては、最近の英検などの動向も念頭におきながら、現在のものを精査して、この講座の特徴に合致し、かつ講座を受講する方にわかりやすい形にするように期待します。
- ・「モノ消費」から「コト消費」へ観光客の関心が移っている中で、本県の地域資源に目配りすることにより、観光地だけではない神奈川の魅力となる部分についても意識を向けるよう、工夫して講座内容を充実させていくことが望まれます。
- ・地球市民かながわプラザとの連携や「受講者の集い」、「修了者の集い」をさらに積極的に活用し、修了者を実際の活動に結びつけることが重要です。

#### <行政職員コミュニケーション能力向上講座>

- ・県の職員キャリア開発支援センターとの連携による、県職員を対象とした研修が引き続き高評価を得ていることから、講座内容を蓄積して今後活かせるようにすることを期待します。

#### <青少年向け異文化理解・コミュニケーション能力向上講座>

- ・今後の検討にあたっては、講座の活性化を目指し、大学入試システムの変更を視野に入れつつ、高校生にとって「役に立つ」講座の編成を検討するように望みます。

#### <研究活動>

- ・これまでに開発を進めてきた、英語初歩編のWeb教材を公開するとともに、今後初歩編については音声を加えた改訂版の作成や、基本編作成のための素案作りに取り組むことになっています。音声部分の追加については県のホームページ作成上の制約があるとのことですが、課題を克服して充実したものになるように期待します。

### 3 外国籍県民等支援事業

中心となる「外国籍県民等支援ボランティア養成講座」においては、出前講座を柱としつつ可能な範囲で実施回数等を事前調整するとともに、アカデミア開講講座のクラス数は柔軟に対応することとしています。外国籍県民対象の講座については、神奈川や地域を学ぶ内容の強化や社会制度の情報提供を充実させるなど、ニーズへの的確な対応と効率的な業務運営を推進する計画になっています。

外国籍県民がアカデミアの講座で直接日本語を学ぶことについては、立地等諸般の条件から対象が限られるとはいえ、確実にニーズはあるため、効率的、効果的な事業運営を図りながら、現在の講座群を全体として維持していくように望みます。

#### <外国籍県民等支援ボランティア養成講座>

- ・ボランティア団体や市町村等へ出前講座を積極的に行うとともに、利用者が少ない県西部の県民にアピールするため、県西地域においてサテライト講座を開講するなど、積極的に外に出ていく講座編成方針になっています。

- ・「地域で暮らす外国人の声に学ぶ」講座については、地域社会と関わりながら多彩な生活を送っている外国の方の話の聞いて、多文化共生社会について考えるという趣旨であり、日本語ボランティアに限らず、多くの人に関心を持ってもらう講座であるため、講師に幅広く多様な人材を求めていく点を評価します。

#### <行政サービスのための「やさしい日本語」等研修講座>

- ・小規模自治体の職員の利用を促進することが課題となっていました。市町村研修センターと連携を図ることにより、「やさしい日本語」の取組みがより広がりを持つように期待します。
- ・保健福祉の専門職の出前講座において、「やさしい日本語」だけでカバーすることが難しい課題を認識したことが、行政職員対象のコミュニケーションシートを作成する研究の契機となっています。今後、行政のためのシートを日本語ボランティアも見られるようにすることで、外国籍県民と行政がどういう場面につながるのかを学ぶ機会になることを期待します。

#### <生活の自立を図るための日本語・日本社会理解向上講座>

- ・「はじめてのにほんご」講座については、日本語を理解できない外国籍県民にどのように広報するかが課題ですが、初期指導をアカデミアが行い、その後の継続指導をボランティアに任せるという全国的にも珍しい試みとして、アカデミアの独自性の証となるものです。日本語ボランティア団体がアカデミアを活用し、「はじめてのにほんご」を終了したらその団体での実践活動につなげていくモデルができることを期待します。

#### <研究活動>

- ・平成30年度から「やさしい日本語」でつなぐコミュニケーションシートの研究開発に取り組むこととしています。この研究テーマは、アカデミアがゼロビギナー向けの講座を一時休止していた時期に、入門教材を研究して提供しようということから始まったものですが、平成30年度には入門教材を一層充実させるとともに、福祉関連の専門家のためのシートも作成することになっています。行政職員対象のコミュニケーションシートは日本語ボランティア対象とは異なる難しさがありますが、アカデミアと行政現場の知見を合せて、効果的なシートを作成することを期待します。

以上